



令和5年度「国際交流キャンプ」を振り返って

本事業は、日本で勉学に励んでいる留学生と県内の中高生が交流することを目的とするとともに、国際社会に向けた学生の視野を広げ、相互の異文化理解と交流を図ることをねらいとして実施しました。

県内の大学で勉学に励んでいる中国、インドネシア、ベトナムから12人の留学生、中高校生35人の計47人の参加者が、ポッチャ・グラウンドゴルフ、花火で交流、交流会を楽しみました。

(1) 出合いのつどい、出合いのレクリエーション

スタッフ自己紹介の後に、出合いのレクリエーションを行いました。拍手の練習後、グループに分かれて自己紹介やLOOK THIS WAY（英語の“あっちむいてはい”）を行いました。みんなで楽しく活動できました。



(2) ポッチャ・グラウンドゴルフ

グループに分かれて、ポッチャやグラウンドゴルフを行いました。ほとんどの人が初めての体験となりましたが、グループの人と協力して楽しく活動することができました。体を動かしながらコミュニケーションを取り合ううちに、段々と会話が弾んでいく様子が見られました。

【参加者アンケートから】

- ・グラウンドゴルフをすることで、チームの人と仲良くなるきっかけになりました。
- ・ポッチャをしてみて、話をしたことのない方と楽しく話せてよかったです。
- ・新しい体験ができて楽しかった。



(3) 花火で交流

初めて会った友達との輪が広がり、1日目の夜になりました。ちょっと寒かったですが、みんなで花火をしながら交流をしました。近くにいる友達と話をしながら楽しく花火をする姿が見られました。400本以上準備した花火があっという間になくなりました。

【参加者アンケートから】

- ・雨でキャンプファイアはできなかったけど、花火をすることでより仲が深まった。
- ・花火をしながら、いろいろな人と話をすることができました。
- ・キャンプファイアをしたかったけど、花火も楽しかった。



(4) 交流会

第1部では中高校生が住んでいるところで有名なもの・観光スポット等を紹介しました。そして第2部では留学生一人一人がブースを設けて、日本の中高校生に母国の文化を体験してもらいました。それぞれの国の遊び、文化の学習、ダンスなど、バリエーションに富んだ内容を披露していただきました。留学生も中高校生も常に興味関心のある表情でした。私たちスタッフも一緒になって学びました。

【参加者アンケートから】

- ・留学生の住んでいるところの文化などを詳しく知ることができてとてもよかった。
- ・様々な国の文化を体験することで、他の国に興味ができました。
- ・中高校生は、とても親切で、丁寧に住んでいる地域のことを説明してくれた。



<全体を振り返っての感想> (満足96%、やや満足4%、やや不満0%、不満0%)

- ・短い時間の中でしたが、交流を深めることで、国際社会に向けてかなり視野が広がったと思います。
- ・来るまではなじめるか不安だったけど、いろいろな人と話をして、外国について知ることができたので良かったです。
- ・自分とは違う文化を知ることできて楽しかったです。これからももっと積極的に他国のことを知りたいです。
- ・この二日間で様々な交流をしていくことで、外国に行ってみたいという気持ちがとっても高まりました。



別れのつどいでは、中高生、留学生双方から感想発表していただきました。皆さんから、充実した2日間を過ごしていた様子を聞くことができました。本当にありがとうございました。

「国際交流」とは、他国の人と交流することで、お互いの国について理解したりよく知ったりするための活動です。ときに「異文化交流」と呼ばれることもあります。日本社会のみならず、全世界でグローバル化が進むなかで、国家レベルの関係者同士での外交だけでなく、一般市民が交流して、異文化についての理解を深める必要性も高まってきました。日本が国際社会で生き残っていくためにも、国際交流はますます重要な取り組みになっていくでしょう。だからこそ、今後も国際交流キャンプの継続を目指していきたいと思います。

最後に、「国際交流キャンプ」を実施するにあたり、新潟県国際交流協会の皆様をはじめ、多くの県関係機関の皆様のお陰をもちまして、事業を行うことができました。感謝申し上げます。

国際交流キャンプ担当：指導課 星野 貴之、草間 淑之